

令和6年度 福井県立武生高等学校（全日制） 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
学校業務改善のための取組み	a 行事や会議等の業務の精選と、D X化により業務を効率化する。	・ I C Tを活用たペーパーレス化により、会議を効率的に進めることができた。 ・テスト採点システムを活用することで、採点終了とともに分析集計が完了し、すぐに生徒にフィードバックできるなど、教員の負担軽減にもつながっている。 ・校内組織である学校改革ユニットによる業務改善のための行事精選のアンケートを12月に実施した。	・来年度以降も I C Tを活用した業務改善を各校務分掌に広げていく。 ・校務用パソコンの入れ替えにより、microsoft teams を有効活用したD X化を推進していく。 ・行事精選について、生徒、保護者の理解を得ながら進めていく。
	b 教員一人の抱える業務を見える化し、協働しあえるシステムを構築する。	・業務の偏りを感じている教職員の割合が42%であり、目標である20%以下とは大きな差があった。 ・働き方改革の取組みの必要性については、ほとんどの教職員が意識している。	・各校務分掌の業務の平準化を図り、業務の偏りを感じる教職員の割合を減らしていく。 ・定期的に短時間の個別面談を行うことにより、業務の進捗や課題、悩み等を共有する機会を設け、教職員の業務状況の把握に努める。
	c 様々な勤務体系を活用する。	・今年度当初から、希望に応じて早出勤務、遅出勤務等、様々な勤務体系を実施することができた。 ・早出勤務、遅出勤務等様々な勤務体系を活用できた教職員の割合は50%であり、目標の70%には届かなかった。	・様々な勤務体系を実施しやすいよう、時間割や朝のS Hの担当等を工夫していく。 ・今後も業務の精選、様々な勤務体系を活用することにより効率化を進め、生徒と向き合う時間の確保や、教職員の心身の健康維持に努めていく。
教育課程・学習支援等（教務部）	a 校内の授業研究体制を確立し、教材を工夫したり、I C Tを活用したりすることによってわかりやすい授業による学習内容の定着を図る。	・授業内容に対する興味、関心の数値に関しては、生徒、保護者とも目標値に達した。 ・ I C Tを使用した授業が浸透し、デジタル教材の活用など授業の適材適所で効果的に使用することができている。引き続き要所で話し合いの場面を設けて考察の過程を共有したり、お互い疑問を投げかけたりした工夫が見られる授業を組み立て、授業改善に努める。	・各教科で生徒の理解の程度や定着を確認しあい、弱点の補強を組織的に行う。 ・授業改善プロジェクトチームの取組みを全校で共有し、授業方法やI C Tの活用方法、探究的な学びについての実践共有を行い、教員の授業力向上を図っていく。
	b 学力向上チームを中心に、生徒の主体性を育み、思考力・表現力の向上をめざす授業改善を図る。	・多くの教職員が生徒の能力や個性に注意を払い、生徒の主体性に基づいた教育活動を行っている。 ・教職員全体に、生徒の関心・意欲を高め思考力・判断力・表現力の向上をめざす授業改善に取り組む雰囲気が見られる。 ・すべての教科で授業改善が進み、生徒は、授業がわかりやすいと感じている。	・主体的・協働的な学びを育むために、引き続き積極的に授業作りの工夫・改善を継続していくとともに、学習指導要領や新傾向の大学入試等を念頭に置き、主体的な学びに関する校内研修会を通して、指導法の共有や検討等、更なる授業研究を継続していく。
	c 家庭学習の実態を把握し、面談や適切な課題を通して自学自習の習慣・態度を養う。	・家庭学習時間が平日1時間未満の生徒の割合は減少しており、生徒の学習への取組みは上昇しているものの、4時間以上の生徒の割合は27%で、全体での目標指標を下回っている。一方で、保護者の70%は、充実した家庭学習が行われていると感じている。	・家庭学習時間調査や面談等を充実させ、生徒の学習習慣の一層の定着を図る。また課題の内容・与え方について生徒の意欲の喚起を意識する。 ・生徒が各教科に対して積極的に関与し、自らの学習を調整しながら授業や課題に取り組むことができるよう支援する。
生徒支援（生活部）	a 集会やクラス等の場で継続的に人権尊重を啓発し、S N S等による過剰な連絡を生徒同士が自粛し合う風潮を、生徒会や保護者と連携協力して作っていく。	・ほぼすべての生徒が、人権を尊重し、ネット上に他人を誹謗中傷する内容を書き込まないようにしている。 ・「夜9時以降はS N Sでの連絡をしていない」生徒は33%に過ぎず、他者のプライベートな時間を侵さないように配慮できていない。 ・「教師が人権を尊重する意識を啓発している」割合は、教職員、生徒とも目標を達成している。	・生徒会を中心とした啓蒙活動の充実を図るとともに、保護者の理解や協力が得られるような働きかけが必要である。 ・引き続き人権教育、モラル教育を実施する。 ・対人的な生徒の言動に注意し、心が傷付けられ苦しんでいる生徒がいないかにも目を配り、生徒が相談しやすい人間関係を築くよう、全教員が心がける。
	b 挨拶推奨、校則遵守・マナー向上指導の頻度を増やし、生徒がその大切さを理解して挨拶や正しい服装等ができるよう指導する。	・99%の生徒が「武高生としてふさわしい」頭髪・服装ができたと回答しており、生徒指導体制についても保護者からの評価は高い。 ・挨拶ができる生徒の割合は例年同様高く、部活動を中心に場に応じた挨拶ができている。	・引き続き集会等の機会を利用して挨拶の意味や基本的生活習慣の確立の重要性を理解させるよう努める。また、校内携帯電話使用規定について生徒会とも協働し、検討する。 ・歩きスマホ・自転車スマホについては、その行為が自己を危険にさらすだけでなく、他者に危害を及ぼす可能性のあることから、真剣な啓蒙を持続する。
	c 一定時間内で部活動に集中し、学習と両立できるよう、担任や顧問が生徒の実状をきめ細かくつかみ、サポートする。	・教職員は個々の生徒に向き合い、積極的に部活動や学校行事に取り組んでいる。 ・88%の生徒が特別活動と学業の両立を図り、95%の生徒が自主的・積極的に行事や部活動などに取り組み、目標を達成できた。 ・92%の保護者が「H R 活動や部活動、学校行事は充実している」と回答しており、目標達成できている。	・ホームルーム活動・生徒会活動・学校祭行事等では、生徒が主体となった話し合い等を積極的に実施する、また、それらの活動の中で生徒が提案した事柄に対しては、生徒と教職員間の意見交換等を十分に行い、生徒の主体的に取り組む姿勢、リーダーとしての資質を育成していく。
進路支援（進路部）	a 個人面接やロングホームを通して、自己意識を育成し、可能なら早期の進路目標を設定する。きめ細かな初期指導や、動画学習教材、自己の進路希望に応じた講座を受講し、国公立大学に合格する確かな学力を身につけることができる。	・生徒一人ひとりに適切な進路目標を持たせるために生徒理解に努め、きめ細やかな進路支援ができた教職員は92%と高い割合を維持している。 ・75%の生徒が「具体的な進路目標をしっかりと持っている」と回答しているが、生徒が興味・関心を把握し、進路目標を明らかにし、進路目標実現に向けて努力を続けるための支援を行う。	・大学が実施する公開講座やオープンキャンパスに積極的に参加するよう生徒に働きかける。 ・大学の先生を招聘し、研究者から直接大学の紹介や大学での研究について話を聞く機会をもつことで、生徒自身の進路に関する意識を高めていく。
	b 進路講演会、大学訪問等を通して、自己および保護者の進路意識を高め、高い目標を持って学び続ける集団を求める。特別講座や個別指導、動画学習教材を通して、難関大を突破する高い学力を身につけることができる。	・生徒88%・保護者86%、教職員94%が「課外、特講を通して、学力向上指導が十分行われている」、生徒94%保護者87%教職員95%が「面接や進路企画等の中で、高い志望を持ち続ける指導が行われている」と、回答していることより、本校の進路支援体制は全体的に整っている。	・進路行事、進路情報の提供によって生徒が進路意識を高め、教科、学年会と協働することによって生徒が自己の学習を見直し、主体的に取り組んで進路実現できるように支援していく。

令和6年度 福井県立武生高等学校（全日制） 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
保健管理 (保健部)	a 身体計測の統計データの公表や各種検診の事後指導の徹底、丁寧なカウンセリング活動、健康に関する情報の適切な発信を通じて、生徒の心身の健康管理意識の高揚を図る。	・「保健だより」を通じて、感染症感染予防の対策に力を入れ、健康管理意識の高揚に努めてきた。 ・生徒の健康意識は93％と高い水準を維持できている。コロナ禍を経て、健康に関する意識は高くなっている。 ・保健室利用では、学業不振や友人関係などの悩みが蓄積して心の不調に陥っている生徒が年々増加している。	・「保健だより」などを活用し、生徒に対して、これまで以上に、健康に関する知識を伝え、日々の健康管理の必要性を自覚させるよう促していく。 ・心の不調に関して、早期に気づくことが重要となる。今後も引き続き、学級担任や教育相談および保護者、外部機関と連携し、迅速な対応を行っていく。
	b 生徒にとって一番身近な美化活動である毎日の清掃活動とゴミの分別の徹底を図り、生徒の主体的な活動が快適な学校環境を実現することを意識させる。	・清掃活動について生徒96％、教職員97％が意欲的に取り組めていると回答している。保護者からの評価は85％と昨年度の82％から向上した。 ・ゴミの分別については、生徒99％、教職員83％が適切に分別していると回答している。	・清掃活動を通して、生徒とともに清潔で快適に過ごせる環境を整備すると同時に、自主的な態度や姿勢が向上していくような働きかけを行っていく。 ・生徒の委員会活動(美化・保健)を通して、校舎内外の安全・衛生点検を徹底し、より良い学習環境の整備につなげていく。
	c 防災訓練実施に際し、避難ルートの確認や消火器の正しい使用法で防火演習に取り組むことで生徒の防災意識を高め、万が一の災害に備える。	・防災訓練の際には、実際の災害を想定し、地震の後で火災が発生する状況で訓練を行った。火災発生場所によって、避難経路を臨機応変に変えていく必要があることを認識、消火器の正しい使用法を学ぶことができた。 ・災害が起きたときの避難ルートや留意事項についての生徒の認知度が52％であった。	・防災訓練について、より実践的な内容を検討し、生徒と教職員の防災意識の向上を図る。 ・防災情報受信機が事務室に設置されており、事務職員との連携を確認しながら訓練を実施していく。
保護者との 連携・図書広報活動 (図書渉外部)	a 本の紹介・図書館の展示・教養講座・朝読書等の取り組みを通して、読書への啓発活動を行い、生徒の読書への興味、関心を深める。	・読書への興味関心があると回答した生徒は62％であるにもかかわらず、資料閲覧、学習活動などで図書館を利用した回数が1～3回程度とかなり少ない。 ・図書室の蔵書管理や雰囲気については、生徒、教職員ともに満足しており、教員の91％が日ごろの読書への指導は適切に行われていると考えているので、いかに図書館を利用するかが課題である。	・図書館の環境整備に努めるとともに、探究活動への支援など生徒のニーズに即した書籍の充実に努める。また、生徒への広報活動のさらなる充実に図る。 ・図書館とSSH研究部との連携を密にし、課題研究との連携を強化し、課題研究に必要な図書等を多く取り入れていく。
	b オープンスクール、学校説明会等の実施や わかりやすいパンフレットやホームページの作成により、学校教育活動の広報の充実に努める。	・オープンスクールでは、参加した中学生の99％が学校の内容を理解できたと回答しており成果があった。 ・ホームページがわかりやすさについて、生徒66％、保護者は68％、教職員94％が分かりやすいと回答している。日々改善している成果が表れており、引き続き中学生向けのページもさらに充実させていく。	・オープンスクールや学校説明会がさらに充実したものとなるよう検討し、積極的な情報発信を行っていく。 ・今後も学校の教育活動を十分理解していただくように、保護者、中学生への広報・連絡方法の改善の検討を継続し、引き続きホームページの充実に図っていく。
	c P T A各会議・各部会の活動をとおして全保護者にP T A活動方針の理解と協力を得る。	・教職員の97％、生徒の86％が保護者への連絡を十分に 行っており、相互の連携は図られている。 ・保護者も、90％以上が本校のP T A活動やP T Aに関する広報活動の充実に満足しており、本校の教育活動に理解は得られている。	・教員・保護者双方の働き方改革を反映した方針・計画のもと、工夫しながらP T A活動を着実に実施していく。 ・今年度活動の成果を吟味して事業の精選、効率化を図り、引き続き生徒に対して必要な支援とは何かを模索しつつ保護者と教職員が協働していく。
	d 生徒が充実した学校生活を過ごせるよう奨学金の周知、購買等の充実に図る。	・奨学金関係の情報認知度が7ポイント下がった。購買前に新設した掲示板（奨学金コーナー）への丁寧な掲示案内、グーグルクラスルームでの告知とともにクラス掲示し、奨学金についての周知を図っていく。 ・購買などの物品、パン販売については、92％の生徒が満足している。	・入学式後、P T A入会式の連絡で、奨学金掲示板の場所や、機に応じたクラスへの周知案内方法を説明する。 ・奨学金について、引き続き掲示板へのわかりやすい掲示案内と、全学年へのグーグルクラスルームでの情報提供に努めていく。
S S H・探究 学習 (S S H)	a 知識や根拠をもとに論理的に考え、未知・未踏の領域に果敢に挑戦する姿勢を育成し、地域の小中学校・高等学校・大学・企業等へ成果の発信をする。	学校外で課題研究発表会に出場・出品し、その合計は205本で、前年度102本から倍増し、目標を達成できた。SIH国際ビジネスコンテストで全国・世界ブランド価値共創賞（第2位）を受賞するなど、国際大会でも高い評価が得られた研究もあった。（・福井県合同課題研究発表会、高校生探究フォーラム、JSEC高校生・高専生科学技術チャレンジ、全国高校生プレゼン甲子園）	・生徒に対して、探究活動の意義を機会あるごとに伝え、活動に取り組む意欲・態度を更に高める。また、探究に関する各種コンテストやイベント、学会等へ積極的に参加するよう、引き続き生徒に呼びかける。 ・課題研究や各種研修等の成果について保護者がより理解できるよう、ホームページ等による広報を拡充する。
	b 課題研究や探究的な学びを通して、積極的に意見交換を行い、協働的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。	・取組みにより自らの積極性や他者と協働する力が高まったと感じている生徒、および生徒の積極性を高められたと感じている教員は、 いずれも90％を超えており、目標を達成した。	・学校全体で探究活動に前向きに取り組む姿勢が生徒・教員のアンケート結果より見られ、今後もこの姿勢を大切にし、生徒の論理的な思考力、未知のことに挑戦する力、協働力を育成していく。
心の環境整備 (いじめ対策委員会)	a 担任等による面接指導、学習の個別指導および部活動指導などを通じて、生徒と心を通じ合える関係を築く。	・個別に係わる機会を週2回以上持つことができた教員は84％と昨年より増加した。	・行事の見直し、業務内容の改善、工夫をさらに進め、授業以外で生徒と関われる機会を増やしていく。 ・生徒に関する情報を職員間で共有し、支援内容の充実をはかる。さらに多くの面談を実施していく中で、生徒が抱える悩みを教員が共有し、学校生活を不安なく過ごせるよう支援していく。
	b 振り返りチェック票の活用や保護者・外部機関との連携を図り、いじめの早期発見・早期解決に努める。	・振り返りチェック票をタブレットを利用し、いじめの早期発見、早期解決に努めている。 ・振り返りチェック票等から得られた情報を確認し、必要な対応を行うことができなかった教職員が3名いた。 ・「いじめ防止基本方針」を改定するとともに、いじめ早期発見、早期解決のための取組みについて、研修会を実施した。	・些細と思われることも、情報を共有しようという認識を教員間で徹底する。 ・職員、委員会、外部関係機関の連携をさらに密にして、事案対応だけでなく、未然防止にも力を入れていく。 ・「心の天気図」を活用し、長期休業明けの生徒達の心の状態を把握し、問題の未然防止に努めていく。